

---

研究課題

# 学びの連続性を活かした小中一貫教育の推進

---

副題

～「つながる力」を基軸としたコミュニケーション力の向上をめざして～

---

キーワード

外国語活動 活用型学力

---

学校名

鳥取市立湖南学園

---

所在地

〒680-1443  
鳥取県鳥取市六反田1番地の5

---

ホームページ  
アドレス

<http://www.torikyo.ed.jp/konan-j/>

---

## 1. 研究の背景

本研究は、本校児童生徒のコミュニケーション力を向上させたいという開校当初からの課題解決に向けて、特設教科であるコミュニケーション科を基軸として、「つながる力」をキーワードとしながら、一貫校ならではの活動をより充実していくことで様々な人との出会いを通し信頼関係を築き、豊かな人間関係づくりを目指そうとするものである。本校は9年前に鳥取県初の小中一貫校として開校し、毎年研究発表大会も開催しながら県内外の方々に指導をいただいている。平成26年度からは鳥取市より「未来のとっとり教育創造事業『グローバル化に対応した英語教育』」のパイロット校指定も受け、コミュニケーション科を基軸とした研究成果を公開してきている。特設教科として進めてきたコミュニケーション科であるが、国の動向をふまえ、グローバル化を進めるにあたって活用が必須と考えているICT機器について、既存の機器では外国語での授業や交流活動の企画・実施が、予想以上に制限され、特に外国語活動支援員や国際交流員、県内外の他校との交流も思うように進まず、発信力を磨くためのツールの一つとして取り組むことのできるICT環境の改善を進めていくことが大きな課題として残っていた。また、タブレット端末や電子黒板等を使った授業実践やテレビ会議システムの運用が、本校のコミュニケーションツールとして必要不可欠であるという多くの声も聞かれていた。

## 2. 研究の目的

このような背景の中、仕組まれた場面での表現にとどまっている児童生徒の実態を打破し、自信を持って情報を発信したり仲間とのより豊かな人間関係を構築したりするために必要な社会的スキルを育成していくためには、自己表現力や発信力、他校との授業交流、さらにはプレゼンテーション力の向上といった「つながる力」をより確実に身に付けていくことが必要と考える。積極的なICT活用による本研究の推進は、表現や発信の幅を広げるとともに質を高め、本校の課題解決に向けて大きく躍進し、その実践から得られる知見は、多くの学校や関係機関への参考となるものと考えられる。

### 3. 研究の方法

#### (1) コミュニケーション力・ICT活用に関わる児童生徒・教職員の実態把握

- ① コミュニケーション力：言語活動に関する関心・意欲・態度、授業中の発表、ペアトーク・グループトークの現状、討論の現状、コミュニケーションスキルなど
- ② ICT活用：教室等での教材提示装置や電子黒板の活用など

#### (2) コミュニケーション力向上のための日常的な活動

コミュニケーション力のスキル向上のため、以下の項目についてどのような工夫をして、日常でコミュニケーション力を向上させるか検討し、実践していく。

- ・板書の仕方の基本スタイル、ノートやワークシート、評価カード等への記入のしかた
- ・ペア、グループでの学び合いの効果的な方法とポイント
- ・話し合い活動のポイント ・活動中のICTの効果的な活用

#### (3) 授業でのコミュニケーション力育成場面の設定

各教科・領域の中で効果的だと思われる場面に、言語活動を取り入れ、実践する。特に特設教科コミュニケーション科においては、作成しているコミュニケーション力系統表にもとづき、学びの連続性を意識した年間指導計画に基づき、年間を通してコミュニケーション力育成の場面を取り入れていく。

#### (4) 研究授業での検証

(2)(3)をベースにして、全学級で研究授業（プチプレ研）を行う。事後研究会では、ブレインストーミングやマトリクス表を活用したKJ法を取り入れた教職員自身のコミュニケーション力が向上する方法で話し合いを進め、授業実践のブラッシュアップを行う。

#### (5) 県内外の小中一貫校等（鳥取県日南町立日南小中学校、高知市立義務教育学校土佐山学舎、台北市立国民文化小学校）との継続的な交流活動の推進

#### (6) 本活動実践後のコミュニケーション力育成についてのアンケート調査

（児童生徒・保護者・教職員）

#### (7) 本研究のまとめ、啓発活動

### 4. 研究の内容・経過

#### (1) コミュニケーション科を基軸とした発信力を磨く動の推進

全学年（1～9年）が、年間を通して、計画的に鳥取市国際交流員やALT、外国語活動支援員等、地元在住の外国籍の方との交流学习活動「English Caravan in 湖南」を計画的に実施し、タブレット端末や電子黒板、大型テレビを活用したプレゼンテーションに積極的に取り組み、英語をはじめとした様々な言語をツールとしたコミュニケーションに慣れ親しむとともに、諸外国の文化に興味を持ち、ふるさと湖南や鳥取のすばらしさを再確認する活動を進めた。

#### (2) テレビ電話やテレビ会議システムを活用して県内外の小中一貫校との授業交流

「一貫校で地域づくり・人づくり」のミッションのもとに繰り広げられる学校内外の取り組みを、個人情報に配慮しながらリアルタイムにICT機器を用いて積極的にWeb上で動画発信をし、より多くの方に鮮明に届けることに努めた。また、購入した機器を使って、テレビ電話やテレビ会議システムによる県内外の小中一貫校との授業交流を計画的に行った。

また、6月には、鳥取県国際交流事業の一環として台湾の台北市立国民文化小学校の小学生が来校し、ICT機器を活用しながらお互いの学校の特色を紹介したり、一緒に外国語活動を進めたりした。

### (3) 公開授業・職員研修の計画的実施

年度当初に、授業研究会や職員研修について年間実施計画を作成し、全学級が1回以上の公開授業を行うとともに、事後研究会では、表現力向上のツールとしてより有効に活用する方向性について話し合いを重ねていった。



↑職員研修～ICT機器活用～

#### 実施した公開授業等

##### ①6月 校内授業研究会

- 1年コミュニケーション科（英語活動） 「色であそぼう」
- 5年コミュニケーション科（英語活動） 「夢の時間割」
- 9年英語科 「Unit 3 Fair Trade Event」

##### ②7月 校内授業研究会

- 8年総合的な学習「ワクワクこなん」
- 7年理科 「光・音・力による現象」

##### ③9月 校内授業研究会

- 7年コミュニケーション科（ワーク）「Let's enjoy communication！」
- 2年コミュニケーション科（英語活動）「食べものであそぼう」

##### ④12月 小中一貫教育実践研究発表大会

- 1年コミュニケーション科（英語活動） 「どうぶつえんをつくろう」
- 3年コミュニケーション科（英語活動）  
「色と形であそぼう～Let's decorate a Christmas tree!～」
- 4年コミュニケーション科（英語活動） 「アルファベットであそぼう」
- 5年コミュニケーション科（英語活動） 「 can swim. ～できることを紹介しよう～」
- 6年コミュニケーション科（英語活動） 「世界へ飛び出そう ～My Dream～」
- 8年英語科 「Unit6 Rakugo in English ～Presentation2 町紹介～」

講師 文部科学省 初等中等教育局教育課程課国際教育課 直山 木綿子 調査官

## 5. 研究の成果

### (1) 授業におけるICT活用の成果

全学年全教科で授業における積極的な機器の活用を進めていった。中でも、研究の基軸としているコミュニケーション科では、市内在住の外国籍の方々を多数迎えてお互いの国の文化や教育について語り合ったり、ふるさとの歌を一緒に歌ったりしながらより表現力を磨く交流学習活動「English Caravan in 湖南」をひとつの単元として構成した。初対面の外国籍の方々を前にした児童生徒の大半は、恥ずかしくて目を合わせることも難しかったが、ツールの一つとしてタブレット端末を使ってふるさと鳥取のことを次々に紹介していくうちに笑顔が戻り、用意していた自己紹介等の原稿から徐々に離れて、相手をしっかりと見ながら何とかして思いを伝えようとしていた。また、相手からの質問に対しても端末を活用しながら、身振り手振りも交えて大いに会話が盛り上がり、初対面の外国籍の方々との充実した時間を過ごしたことは大きな成果だった。年度当初に全学年を通して系統的に学びが積み上がるよう話し合い、年間指導計画に位置づけたことによって、計画的に推進することができたと考える。また、このような交流活動は、単なるイベントで終わってしまうことも多い中、待望の機器導入によって、コミュニケーションツールが拡がり、指導者がこれまで挑戦したくてもできなかった活動が次々と実現したことによって、つけたい力もより明確になったようだ。児童生徒の笑顔あふれる姿を目の当たりにした私たちは、自らの日々の関わりを大いに反省するとともに、このような発信力向上の場を計画的に仕組んでいくことが児童生徒の確かな表現力の向上につながっていくということを実感した。



← 8年 英語科  
「ふるさと紹介」

7年コミュニケーション科(ワーク) →  
「Let's enjoy communication！」





基軸としているコミュニケーション科で身につけた力を他教科で活用してこそ、本校のめざす真のコミュニケーション力の育成につながっていく。小中教員の相互乗り入れによる教科担任制を段階的に取り入れている本校の指導体制において、コミュニケーション科以外の各教科での顕著な成果として、タブレット端末を使ったペアやグループでの学習があげられる。調べたいことや伝えたいことを、児童生徒にとって必然的な活動が次々と展開され、コミュニケーションツールの一つとして機器活用することにより、話し合いが活性化し、その結果、思考の幅が広がっていった。中でも、中学生の国語や理科、音楽科、体育科での成果は大きかった。

9年国語科公開授業 →  
「月の起源を探る」



← 7年理科公開授業  
「光・音・力による現象」

また、各教科、単元のまとめ学習においても、プレゼンテーションソフト等を使って発表したり、撮影した動画等を繰り返し再生しながら確実に振り返りをしたりする機会が増え、児童生徒の学ぶ意欲が高まり、確かな学力へとつながっていった。

このように、タブレット端末をはじめとするICT機器を授業に取り入れたことにより、児童生徒の関心と興味が高まり、課題把握が困難な児童生徒においては、教科書の挿絵だけでは理解できないことも容易になった。また、教材提示装置と大画面テレビを使って自分の考えを発表することに楽しさを見出した児童生徒もぐんと増えたことも大きな喜びである。

## (2) 組織力(=学校力)の向上

公開授業(プチプレ研)について、当初の計画通り、全学級でを計30回近く実施することができた。お互いに授業を公開しあい、感じたことや改善点等をブレインストーミングやマトリクス表を活用したKJ法スタイルで事後研究会に活かしていくシステムが定着したことにより、機器の有効的な活用を推進し

ていく土台が築かれた。年度当初は様々な意見も飛び交い、方向性が定まらず不安の大きい時期もあったが、理論研修を計画的に行い、プチプレ研を通して授業改善や単元構想を話し合う日々を重ねていく中で、ひとりで悩みを抱え込むことなく、小中の授業を自由に行き来し学び合いながら、児童生徒の実態に沿った各単元を構成していこうという思いが高まっていった。そしてこれからの時代を力強く生き抜いていくために必要なグローバル化に対応したコミュニケーション力をつけていくために研究を推進していこうという思いで職員集団も一つの方向にまとまっていった。職員研修で模擬授業体験や自由研究発表会等を行い、授業実践のブラッシュアップとともにコミュニケーション力育成のために教職員自身のコミュニケーション力向上を図るプログラムを仕組んだことも組織力を向上させた。この組織力こそ、学校力の向上につながっていくものであったと考える。

## 6. 今後の課題・展望

幼少時より限られた人間関係の中で過ごし、対人関係の難しい実態も課題として残されている中で、ICT機器をコミュニケーションツールの一つとして活用しながら豊かな人間関係の構築をめざして取り組んできた一年間であった。成果も前述の通り多くあったが、中には機器に慣れることで精一杯だった教員もいる。今年度をICT活用のスタートの年ととらえ、次年度はタブレット端末のさらなる効果的な活用方法を工夫し、より一層コミュニケーション力が高まる授業実践をしていきたい。



これまで積み上げてきた小中一貫教育の精神を土台として、児童生徒ひとりひとりが喜んで学園生活を送ることができるよう、機を逃すことなく指導、支援を繰り返し、グローバル化に対応したコミュニケーション力の育成をめざして、今後も研究推進に努めていきたい。

↑テレビ会議システムを活用した高知市立土佐山学舎との遠隔地交流（児童生徒会交流）